

令和2年度事業計画

令和2年度は、財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団が設立された平成4年度以降で最も演奏回数が少ない年度と見込まれる中で、新型コロナウイルスの感染防止から、4月の自主公演及び依頼公演が中止となる厳しいスタートとなっております。

新型コロナウイルスの感染の流行が早期に終息し、以下に記載する令和2年度の取組を着実に進め、地域に根差し愛されるオーケストラを目指して参りたいと思っております。

1. 仙台フィルハーモニー管弦楽団を編成し、及び維持すること

(1) 指揮者・楽団員の体制等

平成30年に就任した常任指揮者・飯守泰次郎を中心に、レジデント・コンダクター・高関健、指揮者・角田鋼亮によるさらに充実した指揮者体制を維持していきます。

また楽団員については、令和元年度に実施したオーディションにより、コントラバスセクションに1名、打楽器セクションに1名を採用いたしました。更に令和元年度にオーボエセクションのオーディションを実施し、令和2年度に1名を、令和2年度にチェロセクションのオーディションを実施し、同じく令和2年度に1名を採用する予定です。

2. 交響管弦楽等を行うこと

(1) 定期演奏会

仙台フィルは、平成30年から3年をかけて令和2年のベートーヴェン生誕250周年をゴールに常任指揮者・飯守泰次郎によるベートーヴェンの交響曲演奏を行ってまいりましたが、令和2年度はその集大成となります。令和2年度はまた日本が世界に誇る作曲家武満徹の没後25年でもあります。令和2年度は、ベートーヴェンと武満徹に共通する「創造と挑戦」の精神が時代を超えた普遍的なものというテーマを年間のテーマとして掲げ、優れた指揮者・ソリストとともに紹介してまいります。

第341回(11月)定期演奏会は、桂冠指揮者パスカル・ヴェロが2年半ぶりに定期演奏会に出演します。在任中にシリーズとして取り組み好評を博していたロシア・プログラムに続き、ショスタコーヴィチの大作交響曲第11番「1905年」で再び仙台の聴衆を沸かせます。また、新しい出会い(仙台フィル初演奏)として、作曲家としてまた指揮者として世界中で活躍している野平一郎が第337回(6月)定期演奏会に初登場します。野平は尾高賞やサントリー音楽賞など数々の受賞歴を持ち、現在東京藝術大学作曲科の教授として日本楽壇の

まさに中心人物になりつつあります。今回は昨年世界初演した自身の作品のほか、野平がライフワークとして取り組んでいるベートーヴェンを演奏します。

指揮者としては、アメリカの20大オーケストラのひとつデトロイト交響楽団の音楽監督に就任するイタリア人指揮者ヤデル・ビニャミーニが平成30年の初登壇に続いて第338回（7月）定期演奏会に登場します。また、齋藤秀雄メモリアル基金賞の受賞などでさらに注目を浴びている若手指揮者鈴木優人を第342回（1月）定期演奏会に招聘します。さらに、N響正指揮者・大阪フィル音楽監督など日本楽壇の重鎮となっている尾高忠明が平成26年の第284回定期演奏会以来7年ぶりに第344回（3月）定期演奏会でタクトをとります。

ソリストとしては91年ジュネーブ国際音コンクール優勝者で世界的チェリストのウェン＝シン・ヤン、第3回仙台国際音楽コンクール優勝者の津田裕也、同じく第5回優勝者のリチャード・リン、昨年第7回ヴァイオリン部門第3位の友滝真由を招くほか、第10回浜松国際コンクール第2位など近年成長の著しい若手ピアニストの牛田智大が登場します。

令和3年2月に没後25年を迎える武満徹の作品からは初期の代表作である「弦楽のためのレクイエム」（第343回）、中期の代表作から「夢の時」（第342回）、晩年の代表作から「系図－若い人たちのための音楽詩」（第344回）をお届けします。武満晩年の名作「系図－若い人たちのための音楽詩」は谷川俊太郎の詩のなかから6作を題材として作曲された家族を題材にしています。少女の語りを通して家族への想いや自身の未来を音楽と共に描く本作品は、東日本大震災から10年を迎える令和3年3月に仙台フィルが発信する未来に向けたメッセージでもあります。

なお、令和2年10月から日立システムズホール仙台の大規模改修による閉館のため、会場を仙台銀行ホール イズミティ21・大ホールに移し、各日土曜日の1公演となります。

（2）特別演奏会

ベートーヴェン生誕250年記念企画として、元ウィーン・フィルの名コンサートマスターのライナー・キュッヒルの弾きぶりによるベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲を中心とした特別企画を開催します。オーケストラを知り尽くしたキュッヒルのリードによってウィーンの薫り溢れるベートーヴェンをお届けしたいと思います。

高関健プロデュースで平成30年に再スタートした『日本のオーケストラ音楽展』は、邦人作曲家の優れた管弦楽作品の再発見をコンセプトにしていますが、今回は没後25年を迎える武満徹の作品、合唱と管弦楽の優れた音楽作品で知られる間宮芳生、近年吹奏楽界で注目の高い三善晃の作品を取り上げます。

東日本大震災からまもなく10年を迎え、東北の2つのプロオーケストラが手を携えて東北6県に向けた特別企画として「東北UNITED 山形交響楽団

×仙台フィルハーモニー管弦楽団「合同演奏会2020」を開催します。両オーケストラによる合同演奏会は、過去平成24年と26年に東日本大震災からの復興を祈念して開催されましたが、今回は仙台市の東北連携室と山形市の協力を得て「東北絆まつり」のコンセプトに寄り添いつつ東北6県にむけた音楽によるメッセージを発信します。

「マイタウンコンサート in 岩沼」は、平成30年日本音楽コンクールピアノ部門優勝者の小井土文哉（岩手県釜石市出身）が仙台フィルと初共演を果たします。指揮はいま最も注目されている最若手新進指揮者のひとり松本宗利音が初めて登場し自身が最も得意とするベートーヴェンを演奏します。

年末恒例の仙台における「第九」特別演奏会は、平成30年から3年間常任指揮者飯守泰次郎のタクトのもとでお届けしてまいりました。飯守／仙台フィルが創り出す極上のベートーヴェン第九交響曲にご期待ください。

名曲コレクション・ニューイヤーコンサート2021は、昨年圧倒的な印象を残した若手指揮者注目株の太田弦が再び登場しリムスキー＝コルサコフ：交響組曲「シェエラザード」ほかを指揮します。

世界中に活動の場を拡げている山田和樹と継続して開催している山田和樹×仙台フィルシリーズ第7弾は、山田が最も信頼するピアニスト萩原麻未によるラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番とチャイコフスキー交響曲第4番をお届けします。

（3）依頼公演

7月には、山形交響楽団との合同演奏会の一環で今年開館する山形県総合文化芸術館で山形交響楽団主催の公演が予定されています。同じく7月には爆発的人気を博している人気アニメ「鬼滅の刃」の全国オーケストラコンサートの仙台公演を担当します。

8月には、日立システムズ提供の東北放送ラジオ番組のための公開番組収録コンサートを予定しています。

9月には、毎年恒例となっている仙台オペラ協会の定期公演「魔笛」に出演する予定です。同じく9月には、山形県酒田市希望ホールにて酒田共同火力発電所主催の名曲プロムナードコンサートで音楽生活45周年を迎える千住真理子をゲストにお届けします。また昨年に引き続きアイリスオーヤマクラシック2020が9月にサントリーホールで予定されています。ヴィオラ界の頂点に立つ巨匠ユーリ・バシュメットの指揮で近代ロシア音楽の金字塔ともいえるショスタコーヴィチ交響曲第5番を演奏するほか、バシュメットの独奏による管弦楽作品も披露いたします。

1月には恒例の藤崎ニューイヤーコンサート2021を予定しています。

(4) 室内楽

音楽の力による復興センター東北との連携による被災地域各地での室内楽公演を継続するとともに、平成28年度から継続している岩手県、宮城県、福島県の被災地域に音楽を届ける「みんなのまちのコンサート」では、6月に仙台を中心に展開を予定しています。加えて地域のニーズに合わせて各種室内楽活動を引き続き行っていきます。

(5) その他

被災地のオーケストラとして、平成26年4月から続けている「復興パートナーシート」を令和2年度も継続していくとともに、「音楽の力による復興センター・東北」と連携し音楽による復興支援活動に引き続き務めてまいります。また平成28年からスタートした仙台市中央卸売市場花き運営協議会、宮城県花卉商業協同組合とのコラボレーション企画「くらしに花をそして音楽を」を令和2年度も継続、毎回定期演奏会において音楽と共に生花のある生活をアピールしてまいります。

3. 青少年等の音楽鑑賞及び演奏等に関し指導を行い、その普及を図ること

(1) 青少年のためのオーケストラ鑑賞会

令和2年度も仙台市教育委員会の依頼により、「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」を、仙台市内の小学校5年生と、中学校1年生を対象に日立システムズホール仙台において14公演予定しています。このコンサートでは、事前にそれぞれの参加校に入場券を配布し、児童、生徒は一般コンサートの入場と同じように入場時にそれぞれがチケットを持って入場することで、オーケストラ鑑賞会を通じて多くのことを体験いただき、学んでもらえるよう構成しています。

(2) 文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）

令和2年度も文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）」が採択となり、東北・北関東の小学校や中学校、計12校の訪問を予定しています。令和2年度は実力派若手サクソフォン奏者上野耕平とともに各地にオーケストラの素晴らしさを届けます。

4. その他目的達成のために必要な事業

(1) 演奏に必要な調査、研究

日本オーケストラ連盟加盟団体との各種情報交換に加え、文化庁、日本芸術文化振興基金へのヒアリングなどにより、当団の成長・発展と健全な運営に役立てまいります。

（２）仙台フィルと第九をうたう合唱団

令和２年度も広く市民に広報を行い「仙台フィルと第九をうたう合唱団」の団員を公募いたします。合唱団はオーディションを経て編成したのち合唱指導を行い、仙台クラシックフェスティバルと年末の仙台フィル特別演奏会「第九」で共演いたします。アマチュアコーラスの立場ながら、参加する市民は世界的指揮者と同じステージに立つことによって自らのレベルアップを図ります。

（３）仙台ジュニアオーケストラ

仙台フィルの団員が講師となり、各楽器のパート練習、及び弦楽器、管楽器、打楽器に分かれての分奏を指導し、全体の合同演奏では仙台ジュニアオーケストラの音楽監督が指導にあたります。仙台ジュニアオーケストラの指導を通して、音楽を志す児童、生徒の健全な育成に寄与していきます。

（４）その他

好評をいただいているエフエム仙台「仙台フィル Wave Symphony」は、令和２年度も番組内で聴取者に仙台フィルの演奏をじっくり聴いていただく形で継続されます。加えてTBC東北放送においても「エンジョイ！クラシック」の継続が決定いたしました。これらの放送媒体や仙台フィルのホームページのツイッター、フェイスブックなどSNSによる情報拡散を積極的に行い、仙台フィルの存在とクラシック音楽の素晴らしさを多くの市民に伝えてまいります。